◆ 演習問題 1 解答

残高試算表

×年3月31日

借方	勘定科目	貸方
127,000	現金	
291,000	当座預金	
170,000	受取手形	
320,000	売掛金	
90,000	売買目的有価証券	
27,000	商品	
80,000	備品	
300,000	建物	
	支払手形	132,000
	買掛金	250,000
	借入金	230,000
	貸倒引当金	8,000
	減価償却累計額	126,000
	資本金	550,000
	売上	479,000
305,000	仕入	
24,000	支払家賃	
36,000	給料	
2,000	支払利息	
2,000	有価証券売却損	
1,000	手形売却損	
1,775,000		1,775,000

【解説】

解答の手順は以下のとおり。

1. 資料(B)で示されている期中取引の仕訳を行う(下記参照)。

(1) 現金の増減

a	(借方)	現金	87,000	(貸方)	売上	87,000
b	(借方)	仕入	45,000	(貸方)	現金	45,000
c	(借方)	当座預金	60,000	(貸方)	現金	60,000
d	(借方)	現金	28,000	(貸方)	当座預金	28,000
e	(借方)	現金	31,000	(貸方)	売掛金	31,000
f	(借方)	支払家賃	24,000	(貸方)	現金	24,000
g	(借方)	給料	36,000	(貸方)	現金	36,000

(2) 当座預金の増減

a	(借方)	当座預金	60,000	(貸方)	現金	60,000
b	(借方)	現金	28,000	(貸方)	当座預金	28,000
c	(借方)	当座預金	92,000	(貸方)	受取手形	92,000
d	(借方)	支払手形	78,000	(貸方)	当座預金	78,000
e	(借方)	当座預金	160,000	(貸方)	売掛金	160,000
f	(借方)	買掛金	95,000	(貸方)	当座預金	95,000
g	(借方)	当座預金	14,000	(貸方)	受取手形	15,000
		手形売却損	1,000			
h	(借方)	当座預金	28,000	(貸方)	売買目的有価証券	30,000
		有価証券売却損	2,000			
i	(借方)	備品	30,000	(貸方)	当座預金	30,000
j	(借方)	借入金	70,000	(貸方)	当座預金	72,000
		支払利息	2,000			

(3) 商品の売上

a	(借方)	現金	87,000	(貸方)	売上	87,000
b	(借方)	売掛金	350,000	(貸方)	売上	350,000
c	(借方)	受取手形	55,000	(貸方)	売上	55,000
d	(借方)	売上	13,000	(貸方)	売掛金	13,000

(4) 商品の仕入

a	(借方)	仕入	45,000	(貸方)	現金	45,000
b	(借方)	仕入	222,000	(貸方)	買掛金	222,000
c	(借方)	仕入	47,000	(貸方)	支払手形	47,000
d	(借方)	買掛金	9,000	(貸方)	仕入	9,000

(5) その他の取引

a	(借方)	貸倒引当金	4,000	(貸方)	売掛金	4,000
b	(借方)	受取手形	35,000	(貸方)	売掛金	35,000

なお、資料(B)には同一の取引につき、重複して資料が示されている部分があるため、解答にあたってはこの重複を除外しなければならない。資料が重複している取引は次の 4 つである。

① (1)aと(3)a の現金売上高¥87,000

② (1)bと(4)aの現金仕入高¥45,000

③ (1)cと(2)a の当座預金への現金仕入高¥60,000

④ (1)dと(2)bの当座預金からの現金引出高¥28,000

2. 資料(A)の期首貸借対照表に示されている各勘定科目の期首残高と期中取引の仕訳を合算し、残高試算表を作成する。なお、各勘定口座の内容は次のようになる。(ただし、正式な記入方法ではない)。

現金			
前期繰越	146,000	(1) b, (4) a	45,000
(1) a, (3) a	87,000	(1) c, (2) a	60,000
(1) d, (2) b	28,000	(1) f	24,000
(1) e	31,000	(1) g	36,000
		(残高)	127,000

当座預金			
前期繰越	240,000	(1) d, (2) b	28,000
(1) c, (2) a	60,000	(2) d	78,000
(2) c	92,000	(2) f	95,000
(2) e	160,000	(2) i	30,000
(2) g	14,000	(2) j	72,000
(2) h	28,000	(残高)	291,000

受取手形			
前期繰越	187,000	(2) c	92,000
(3) c	55,000	(2) g	15,000
(5) b	35,000	(残高)	170,000

売掛金			
前期繰越	213,000	(1) e	31,000
(3) b	350,000	(2) e	160,000
		(3) d	13,000
		(5) a	4,000
		(5) b	35,000
		(残高)	320,000

売買目的有価証券			
前期繰越	120,000	(2) h	30,000
		(残高)	90,000

商品			
前期繰越	27,000	(残高)	27,000

備品			
前期繰越	50,000	(残高)	80,000
(2) i	30,000		

建物			
前期繰越	300,000	(残高)	300,000

支払手形			
(2) d	78,000	前期繰越	163,000
(残高)	132,000	(4) c	47,000

買掛金			
(2) f	95,000	前期繰越	132,000
(4) d	9,000	(4) b	222,000
(残高)	250,000		

借入金			
(2) j	70,000	前期繰越	300,000
(残高)	230,000		

貸倒引当金			
(5) a	4,000	前期繰越	12,000
(残高)	8,000		

減価償却累計額			
(残高)	126,000	前期繰越	126,000

資本金			
(残高)	550,000	前期繰越	550,000

売上			
(3) d	13,000	(1) a, (3) a	87,000
(残高)	479,000	(3) b	350,000
		(3) c	55,000

仕入			
(1) b, (4) a	45,000	(4) d	9,000
(4) b	222,000	(残高)	305,000
(4) c	47,000		

支払家賃			
(1) f	24,000	(残高)	24,000

給料			
(1) g	36,000	(残高)	36,000

支払利息			
(2) j	2,000	(残高)	2,000

有価証券売却損			
(2) h	2,000	(残高)	2,000

手形売却損			
(2) g	1,000	(残高)	1,000

◆演習問題２ 解答

合計残高試算表

×年７月３１日

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
156,200	198,500	現金	42,300	
71,500	270,000	当座預金	198,500	
10,000	80,000	受取手形	70,000	
202,600	365,600	売掛金	163,000	
50,000	50,000	繰越商品		
20,800	70,800	売買目的有価証券	50,000	
65,000	65,000	備品		
	53,000	支払手形	71,000	18,000
	131,000	買掛金	225,100	94,100
	13,000	預り金	21,200	8,200
	20,000	借入金	50,000	30,000
		資本金	337,000	337,000
	6,000	売上	400,600	394,600
229,800	234,100	仕入	4,300	
57,000	57,000	給料		
8,500	8,500	支払家賃		
4,000	4,000	手形売却損		
5,000	5,000	支払利息		
1,500	1,500	(有価証券売却損)		
881,900	1,633,000		1,633,000	881,900

売掛金明細表

	7月25日	7月31日
広島商店	¥ 80,000	¥ (120,200)
山口商店	¥ 62,000	¥ (82,400)
	¥ 142,000	¥ (202,600)

買掛金明細表

	7月25日	7月31日
京都商店	¥ 38,000	¥ (52,800)
奈良商店	¥ 21,000	¥ (41,300)
	¥ 59,000	¥ (93,100)

【解説】

解答の手順は以下のとおり。

1. 7/26 から 7/31 までの取引(b)に関して仕訳を行う。

7/26	(借方)	売掛金	24,000	(貸方)	売上 24,000
	(借方)	当座預金	10,000	(貸方)	売掛金 10,000
	(借方)	買掛金	8,000	(貸方)	支払手形 8,000
7/27	(借方)	仕入	18,500	(貸方)	買掛金 18,500
	(借方)	備品	15,000	(貸方)	当座預金 15,000
	(借方)	現金	48,500	(貸方)	売買目的有価証券 50,000
		有価証券売却損	1,500		
7/28	(借方)	売掛金	30,000	(貸方)	売上 30,000
	(借方)	支払手形	6,000	(貸方)	当座預金 6,000
	(借方)	支払家賃	2,500	(貸方)	現金 2,500
7/29	(借方)	仕入	22,000	(貸方)	買掛金 22,000
	(借方)	当座預金	14,000	(貸方)	受取手形 15,000
		手形売却損	1,000		
	(借方)	買掛金	1,500	(貸方)	仕入 1,500
7/30	(借方)	売掛金	31,600	(貸方)	売上 31,600
	(借方)	給料	11,000	(貸方)	現金 9,800
					* 預り金 1,200
	(借方)	借入金	20,000	(貸方)	当座預金 21,000
		支払利息	1,000		
7/31	(借方)	仕入	13,600	(貸方)	買掛金 13,600
	(借方)	買掛金	9,500	(貸方)	当座預金 9,500
	(借方)	当座預金	15,000	(貸方)	売掛金 15,000

＊ 7/30 の給料支払に関する仕訳において、通常「預り金」は「従業員預り金」を用いてもよいが、本問では 7/25 現在の残高試算表から「預り金」で処理することを読み取る必要がある。

2. (b)の取引で生じた売掛金および買掛金の増減額を、得意先または仕入先ごとに集計し、売掛金明細表または買掛金明細表に各金額を記入する。その際、7/25 現在の残高を計算に含めること。

（参考） 7/31 時点の売掛金元帳・買掛金元帳

売掛金元帳

広島商店

7/25	残高	80,000	7/26		10,000
26		19,000	31	残高	120,200
28		12,000			
30		19,200			

山口商店

7/25	残高	62,000	7/31		15,000
26		5,000	〃	残高	82,400
28		18,000			
30		12,400			

買掛金元帳

京都商店

7/29		1,500	7/25	残高	38,000
31		9,500	27		10,500
31	残高	52,800	29		8,000
			31		7,300

奈良商店

7/26		8,000	7/25	残高	21,000
31	残高	41,300	27		8,000
			29		14,000
			31		6,300

3. (b)の取引で増減した勘定科目の各金額と、7/25 現在の合計試算表(a)の各金額とを合計し、7/31 現在の合計残高試算表の借方合計欄または貸方合計欄へその金額を記入する。

その際、勘定科目欄のカッコ内に記入すべき勘定科目が、「有価証券評価損」であることを推定しなければならない。以下に 7/31 現在の主な総勘定元帳を示す。

総勘定元帳

現金

7/25	借方合計	150,000	7/25	貸方合計	30,000
27		48,500	28		2,500
			30		9,800
					42,300
			31	残高	156,200
		198,500			198,500

支払手形

7/25	借方合計	47,000	7/25		63,000
28		6,000	26		8,000
		53,000			
31	残高	18,000			
		71,000			71,000

当座預金

7/25	借方合計	231,000	7/25	貸方合計	147,000
26		10,000	27		15,000
29		14,000	28		6,000
31		15,000	30		21,000
			31		9,500
					198,000
			〃	残高	71,500
		270,000			270,000

買掛金

7/25	貸方合計	112,000	7/25	貸方合計	171,000
26		8,000	27		18,500
29		1,500	29		22,000
31		9,500	31		13,600
		131,000			
	残高	94,100			
		225,100			225,100

受取手形

7/25	借方合計	80,000	7/25	貸方合計	55,000
			29		15,000
					70,000
			31		10,000
		80,000			80,000

売上

7/25	借方合計	6,000	7/25	貸方合計	315,000
31	残高	394,600	26		24,000
			28		30,000
			30		31,600
		400,600			400,600

売掛金

7/25	借方合計	280,000	7/25	貸方合計	138,000
26		24,000	26		10,000
28		30,000	31		15,000
30		31,600			163,000
			〃		202,600
		365,600			365,600

仕入

7/25	借方合計	180,000	7/25	貸方合計	2,800
27	残高	18,500	29		1,500
29		22,000	28		4,300
31		13,600	31		229,800
		234,100			234,100

4. (b)で金額に変動のない勘定科目については、合計試算表上の金額を、合計残高試算表の借方合計欄または貸方合計欄にそのまま書き写す。
5. 合計残高試算表の各勘定科目の借方合計または貸方合計から、借方残高または貸方残高を計算し、記入する。なお、残高は合計金額の多い側に記入する。
6. 記入された合計残高試算表の貸借残高および貸借合計の集計を行う。なお、貸借残高および貸借合計の合計金額はそれぞれ一致しなければならない。

◆演習問題 3 解答

精　　算　　表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	200,000						200,000	
現金過不足		9,000	9,000					
当座預金	224,000		57,000				281,000	
受取手形	314,000			60,000			254,000	
売掛金	262,000						262,000	
売買目的有価証券	340,000			40,000			300,000	
繰越商品	180,000		68,000	180,000			68,000	
備品	1,000,000						1,000,000	
建物	5,000,000						5,000,000	
支払手形		330,000						330,000
買掛金		293,000		6,000				299,000
借入金		1,000,000						1,000,000
仮受金		25,000	25,000					
貸倒引当金		5,000		5,320				10,320
備品減価償却累計額		630,000		90,000				720,000
建物減価償却累計額		1,260,000		180,000				1,440,000
資本金		2,500,000						2,500,000
売上		3,785,000				3,785,000		
受取手数料		29,000	12,000			17,000		
有価証券利息		2,000		2,000		4,000		
仕入	1,512,000		180,000	68,000	1,624,000			
給料	742,000				742,000			
支払保険料	51,000			20,400	30,600			
消耗品費	37,000			10,000	27,000			
支払利息	6,000		7,500		13,500			
	9,868,000	9,868,000						
雑益				3,000		3,000		
(前受金)				25,000				25,000
貸倒引当金繰入			5,320		5,320			
減価償却費			270,000		270,000			
有価証券評価損			40,000		40,000			
(前払)保険料			20,400				20,400	
(手形売却損)			3,000		3,000			
消耗品			10,000				10,000	
(未払)利息				7,500				7,500
(前受)手数料				12,000				12,000
(未収)有価証券利息			2,000				2,000	
当期純(利益)					1,053,580			1,053,580
			709,220	709,220	3,809,000	3,809,000	7,397,400	7,397,400

(決算日までに判明した未処理の事項)

(1) 現金過不足・買掛金の整理

現金の実際有高が¥9,000過剰であったということは、現金過不足勘定の貸方に残高があることを意味する。資本金の決算整理前残高¥2,500,000は、残高試算表の借方残高の合計額¥9,868,000 から資本金を除く貸方残高¥7,368,000 を差し引くことにより求められる。

また、現金過不足が生じた原因として、買掛金の支払い時での誤記入と原因不明額は下記のように処理する。

(借方) 現金過不足　9,000　(貸方) 買掛金　6,000
　　雑　益　3,000

(2)仮受金の処理

(借方) 仮受金　25,000　(貸方) 前受金　25,000

(3)手形割引の処理

(借方) 当座預金　57,000　(貸方) 受取手形　60,000
　　手形売却損　3,000

(決算整理事項)

(1) 売上原価の算定

(借方) 仕　入　180,000　(貸方) 繰越商品　180,000
　　繰越商品　68,000　　仕　入　68,000

(2) 貸倒引当金の設定(差額補充法)

(借方) 貸倒引当金繰入　5,320　(貸方) 貸倒引当金　5,320

＊(受取手形¥314,000－¥60,000＋売掛金¥262,000)×2%－貸倒引当金残高¥5,000＝¥5,320

(3) 減価償却費の計上(定額法)

(借方) 減価償却費　270,000　(貸方) 備品減価償却累計額　90,000
　　建物減価償却累計額　180,000

＊ 備品減価償却費(取得原価¥1,000,000－残存価額¥100,000)÷10年＝¥90,000

建物減価償却費(取得原価¥5,000,000－残存価額¥500,000)÷25年＝¥180,000

(4) 売買目的有価証券の評価(時価法)

(借方) 有価証券評価損　40,000　(貸方) 売買目的有価証券　40,000

＊決算整理前帳簿価額¥340,000－時価¥300,000＝¥40,000

(5) 保険料の前払処理

(借方) 前払保険料　20,400　(貸方) 支払保険料　20,400

＊支払保険料(決算整理前残高)¥51,000÷(当期分12ヵ月＋前期からの再振替分8ヵ月)×前払分8カ月＝¥20,400

（6）手数料の前受処理

（借方）受取手数料　12,000　（貸方）前受手数料　12,000

（7）消耗品の処理

（借方）消耗品　10,000　（貸方）消耗品費　10,000

（8）利息の未払処理

（借方）支払利息　7,500　（貸方）未払利息　7,500

（9）有価証券利息の未収処理

（借方）未収有価証券利息　2,000　（貸方）有価証券利息　2,000

◆演習問題４　解答

貸借対照表

×年 12 月 31 日

資産	金額		負債および純資産	金額
現金		(153,000)	支払手形	(324,000)
当座預金		(551,000)	買掛金	(974,000)
受取手形	(462,000)		前受収益	(58,000)
(貸倒引当金)	(9,240)	(452,760)	資本金	(4,000,000)
売掛金	(325,000)		当期純(利益)	(488,330)
(貸倒引当金)	(6,500)	(318,500)		
売買目的有価証券		(800,000)		
商品		(520,000)		
消耗品		(20,000)		
前払費用		(80,000)		
未収収益		(270)		
貸付金		(600,000)		
建物	(700,000)			
(減価償却累計額)	(151,200)	(548,800)		
土地		(1,800,000)		
		(5,844,330)		(5,844,330)

損益計算書

×年 1 月 1 日から×年 12 月 31 日まで

費用	金額	収益	金額
売上原価	(3,081,000)	売上高	(5,730,000)
給料	(1,900,000)	受取地代	(120,000)
貸倒引当金繰入	(740)	受取配当金	(31,000)
減価償却費	(25,200)	(受取利息)	(40,270)
旅費交通費	460,000	有価証券評価(益)	(340,400)
水道光熱費	186,400		
保険料	(40,000)		
通信費	20,000		
支払手数料	(30,000)		
消耗品費	(30,000)		
当期純(利益)	(488,330)		
	(6,261,670)		(6,261,670)

【解説】決算整理仕訳を下記に示す。

1．仮受金の処理

（借方）仮受金　560,000　（貸方）売掛金　560,000

2．売上値引の処理

（借方）売上　70,000　（貸方）当座預金　70,000

3．売買目的有価証券の評価替（時価法）

（借方）売買目的有価証券　340,400　（貸方）有価証券評価益　340,400

4．売上原価算定の処理（仕入勘定にて算定する方法を用いる）

（1）期首商品棚卸高の振替

（借方）仕入　251,000　（貸方）繰越商品　251,000

（2）期末商品棚卸高の振替

（借方）繰越商品　520,000　（貸方）仕入　520,000

仕 入

(試算表残高)	3,350,000	繰越商品	520,000
繰越商品	251,000		

*仕入勘定残高は売上原価を示す。(¥3,350,000+¥251,000－¥520,000=¥3,081,000)

5．貸倒引当金の設定（差額補充法）

（借方）貸倒引当金繰入　740　（貸方）貸倒引当金　740

（受取手形¥462,000＋売掛金¥885,000－¥560,000）×2%―貸倒引当金残高¥15,000＝¥740

6．建物減価償却費の計上

（借方）減価償却費　25,200　（貸方）建物減価償却累計額　25,200

（取得原価¥700,000―残存価額¥70,000）÷耐用年数25年＝¥25,200

7．未収利息の計上

（借方）未収利息　270　（貸方）受取利息　270

貸付金¥36,000×年利率3%÷12ヵ月×3ヵ月＝¥270

8．前払保険料の計上

（借方）前払保険料　80,000　（貸方）保険料　80,000

保険料残高¥120,000÷12ヵ月×8ヵ月＝¥80,000

9．前受地代の計上

（借方）受取地代　58,000　（貸方）前受地代　58,000

10．消耗品の処理

（借方）消耗品　20,000　（貸方）消耗品費　20,000

なお、貸借対照表に記入する場合において、貸倒引当金と減価償却累計額の金額の計上には留意する。貸倒引当金は受取手形、売掛金の評価勘定であるから各勘定残高より当期設定分を控除形式で示し、回収可能額を明示する。建物については、取得原価から減価償却累計額（¥126,000+¥25,200=¥151,200）を控除して帳簿価額を明示する。